

## 客観的な指標の算出方法

### 成績評価 / GPA 制度

本校では成績管理を厳格適正に実施するために成績評価の方法を定め、学生個人の GPA を算出し、客観的な指標として活用しています。また、学科ごとの GPA に基づく成績の分布状況を年度末に作成し、教職員が把握することで学生に対する学習指導に活用しています。

#### ■成績評価について

成績評価は、科目によって5(7)段階、または2段階で行い、評価基準は下記表の通りとなります。

#### 5(7)段階評価…講義・実習科目

評価	合格				不合格		
	S(秀)	A(優)	B(良)	C(可)	D(不可)	E(履修放棄)	F(試験不合格)
GP	4	3	2	1	0	0	0
評点	90 点以上	80 点以上	70 点以上	60 点以上	60 点未満	-	-

- ・学則別表に定める「講義」「実習」の別により、それぞれ筆記試験、実技試験を行います。
- ・実技試験においては実習内容に応じた評価項目を作成し、その項目ごとに評点を定め、合計点を評価とします。

#### 2段階評価…演習科目

評価	合格	不合格
	P(合格基準)	F(不合格)

- ・イベントへの参加・進行等、グループワークの作業実態によって評価します。

#### 不合格科目について

- ・不合格科目（不可、履修放棄を問わず）が一つでもあると進級判定、卒業認定を受けられません。
- ・不合格科目が一つでもあると成績証明書の発行が出来ません。
- ・不合格科目は前期末、または年度末に行われる補講期間内に、科目ごとに定めた再試、またはレポート提出し、合格することでC(可)、またはP（合格基準）となります。

## GPA 制度について

成績評価と GP の対象は上記 5 (7) 段階評価の表の通りです。

(※ 2 段階評価の科目は GPA の算出に算入されません。)

## GPA を算出する際の計算式

$$(4 \times \text{S 評価の単位数}) + (3 \times \text{A 評価の単位数}) + (2 \times \text{B 評価の単位数}) + (1 \times \text{C 評価の単位数})$$

全履修科目の単位数合計値

例

	単位数	評価	GP	GPA算出 (GP × 単位数)
科目 1	4	A	3	12
科目 2	2	S	4	8
科目 3	2	S	4	8
科目 4	5	C	1	5
科目 5	2	S	4	8
科目 6	3	B	2	6
科目 7	2	A	3	6
合計	20			53
		GPA		2.65

※この例では、GPA算出合計値(53) ÷ 履修単位数合計(20)で算出。

## GPA 制度の実施時期

GPA 数値の算出は年度末補講期間終了後、全ての授業科目の成績評価が確定する時期とします。

## GPA の活用

就職活動の際に企業から GPA を求められた場合、成績証明書へ記載することが出来ます。海外留学の際に大学等から GPA を求められた場合、成績証明書へ記載することが出来ます。学生に対する個別の学習指導に活用し、学生本人が成績の参考地、目標値として設定することが出来ます。

校内選考が必要となる事象に推薦基準として活用する場合があります。

※GPA とは【出典先：文部科学省高等教育局「平成 27 年度の大学における教育内容等の改革状況について（概要）」】

GPA 制度：平成 27 年度においては、「GPA 制度」は、学部段階で 634 大学（約 85%）が導入されており、その内、学部全体で導入しているのは 610 大学（約 82%）となっている。

授業科目ごとの成績評価を、例えば 5 段階（S、A、B、C、D）で評価し、それぞれに対して、4、3、2、1、0 のように数値(グレード・ポイント：GP)を付与し、この単位あたりの平均(グレード・ポイント・アベレージ：GPA)を出して、その一定水準を卒業等の要件とする制度。

前述の通り、当校のカリキュラム上、不合格科目が一つでもあると卒業できません。

そのため、GPA：1 以上が当校の卒業認定の要件となります。